

教員名	秋山 光文 (AKIYAMA Terufumi)
所 属	文教育学部人文科学科形象分析学講座
学 位	文学修士(1974)
職 名	教授
URL/E-mail	http://www.li.ocha.ac.jp/hum/tetsugaku/tetugaku.htm/ akiyama.terufumi@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

インド美術史 / 仏教美術 / 仏教説話図像

◆主要業績

総数 (3) 件

・秋山光文「インド中部におけるグプタ建築の諸相」(分担執筆)『古代インドにおける宗教的造形の諸相—寺院建築と美術の成立と展開—』(平成 14～17 年度科学研究費補助金 基盤研究 A(1) 研究成果報告書 研究代表者:宮治 昭)名古屋大学

・共訳、Jarrige, Jean-François & Gies, Jacques 『聖なる芸術 ギメ美術館アジア宗教美術コレクション』

(原題: Voyage spirituel: Art sacré du Musée Guimet, 英訳版: Spiritual Journey: Sacred Art from Musée Guimet) 翻訳担当箇所: (アミナ・オカダ著) RUPA—インド美術における「形態学」およびインド美術関連図版解説, Istanbul, Ertug & Kocabiyik Publishers.

◆研究内容

インドを中心として、わが国に及んだ仏教美術の展開していくプロセスを追求する。とりわけ、仏教美術が最初に展開するインドにおいて、不可視的な存在とされてきた仏陀の表象が、どのような変節の中で可視的な存在として表出されるのかを検証する。とりわけ、インド古代初期に展開する仏教説話図におけるさまざまな特質を解明することにより、AD 1 世紀後期における仏陀像出現のプロセスを跡づけることが可能になるとの見通しを得た。名古屋大学宮治昭研究室の主催する科学研究費補助金プロジェクト「古代インドにおける宗教的造形の諸相—寺院建築と美術の成立と展開—」への参加は、こうした研究成果を踏まえ、さらにインド古代後期(いわゆるグプタ時代)に展開するインドの民族意識が、どのように造形作品に展開していくかを検証するものであった。とりわけ、4 年間に及ぶ同プロジェクトの最終年に、デカン西部に展開する数多くの石窟寺院調査に参加できたことは、これまでの研究成果と合わせて「古代インドにおける民族芸術の成立」を実証する極めて有力な材料を収集することが出来た。

◆教育内容

【学部】平安時代後期の公家であった大江親通『七大寺日記』を底本とし、歴史的資料と実在する作例との相関を考える演習を行う。授業を通じ、日本美術史・仏教美術史に関する文献資料の検索方法及び研究発表のプレゼンテーション法を併せて指導する。

【大学院】講義科目の内容は、最近の仏教美術史学研究成果に基づいて、古代インドから広く仏教文化圏に展開する造形美術を通じ、「仏教美術伝搬のプロセス」を考察する。特に南アジアを中心に東南アジア諸国や我が国にまで及んだ仏教文化圏諸地域について、地域性と歴史的背景から検証していくことを目的とする。また、演習科目では Ratan Parimoo, *Life of Buddha in Indian Sculpture (Ashta-Maha-Pratiharya)*, Kanak Publications, New Delhi, 1982. を底本にしなが、インド古代彫刻に現れた仏伝表象とその特質について討議していく。

◆将来の研究計画・研究の展望

インド文化圏からさらに広く中国・東インド諸地域をはじめ、東南アジア一帯にまで及んだ、インド古代後期（いわゆるグプタ時代）に展開するインドの古典様式について、その展開のプロセスを考察するとともに、各地域における受容のプログラムについて、それぞれの地域における民族的・歴史的背景を探る。これは、大きく仏教文化圏、あるいはインド文化圏における異文化（インド文化・仏教文化）の受容プロセスが、その後の各地域における独自文化・様式、すなわちそれぞれの地域における国家意識(natioal identity)の形成とどのように結びつくのかを知る一つの手がかりを与えてくれるはずである。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

・「アジアにおける国家意識と造形活動」

◆受験生等へのメッセージ

世界の3大宗教の一つである仏教において造形美術が本格化するのには、仏陀が入滅してから3世紀を経てからのことになる。さらにわが国に仏教がもたらされるのはさらに800年という長い年月が経過してからのことであり、発祥地のインドでは次第に民俗宗教であるヒンドゥー教における造形活動が、仏教美術に取って代わる時期でもあった。インドにおける仏教美術の発生からその後の展開をたどる研究は、広くアジア諸地域で受容された仏教美術のさまざまな姿について、それぞれの地域における地域的・民族的特性を知る極めて有力な手がかりを与えてくれる。ここでは、インドを中心とする仏教美術の多様な姿を解明していく。